

ブランド価値高める

昨年八月に創立九十周年を迎えた河合楽器製作所。河合弘隆会長兼社長(モ)は二〇一八年を「百周年に向けた新たな一歩」と位置付け、培ってきたピアノのブランド価値をさらに高める意欲を示した。

(聞き手・久下悠一郎)

「昨年は新商品の発表が相次いだ。」

「オンキヨーと協力し、電子ピアノの『NOVUS(ノヴァス)NV10』や、高額

モデル『CAシリーズ』で新機種を出すことができた。ピアノも九十周年の記念モデルを出し、象徴的な商品がそろった。特にオンキヨーとの提携は刺激になった。社内でも生懸命考えていても限界がある。協力を新しいチャレンジや展開につなげたい」

「国内市場の見通しは。」

「得意分野であるピアノや電子ピアノに特化し、やらせてもらっている。畑違いの教室もいろいろやったが、なかなか根付くものではない。少子化など厳しい環境に置かれていることは確かだが、その中で方向性を見いだしている」

「得意分野であるピアノや電子ピアノに特化し、やらせてもらっている。畑違いの教室もいろいろやったが、なかなか根付くものではない。少子化など厳しい環境に置かれていることは確かだが、その中で方向性を見いだしている」

「国内市場の見通しは。」

「得意分野であるピアノや電子ピアノに特化し、やらせてもらっている。畑違いの教室もいろいろやったが、なかなか根付くものではない。少子化など厳しい環境に置かれていることは確かだが、その中で方向性を見いだしている」

「国内市場の見通しは。」

「得意分野であるピアノや電子ピアノに特化し、やらせてもらっている。畑違いの教室もいろいろやったが、なかなか根付くものではない。少子化など厳しい環境に置かれていることは確かだが、その中で方向性を見いだしている」



「ブランドを死守して行く」と話す河合楽器製作所の河合弘隆会長兼社長(モ) 浜松市中区で



中心とした二つのコースで現地と協力していく。実力のある人たちに資格を与えており、また新しい人たちを育ててほしい」

「昨年はグランドピアノの旗艦モデル『Shigeru Kawai(シゲルカワイ)』の名を冠した国際ピアノコンクールを初めて開催した。」

「三百五十一人の応募があり、非常にレベルの高い人たちが集まった。始めたからには継続してやる。シゲルカワイのブランド認知につなげた」

「二〇一八年は。」

「次の十年に向けた最初のステップだ。IoT(モノのインターネット)や人工知能といった分野も勉強しながら手だてを打っていく。社内には若い人や女性に頑張ってもらいたい。とにかくカワイのブランドを死守していく。」

「ピアノメーカーは長い年月をかけて育てていくもの。いろんな材料を使って組み合わせる考え、まとめ上げたものを音楽家に弾いてもらい、評価されるのには長い時間がかかる。百年はまだ若い。われわれのピアノ作りを続ける」

「職業人向けと、高校生を

「濱松には今までショップらしいショップがなかった。海外のファンも来てくれるし、浜松近辺の市場に違ったアピールができる。コミュニケーションを図る中で、音楽文化を地域に根付かせ、われ

「職業人向けと、高校生を